令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	石川県

１．事業の具体的内容について

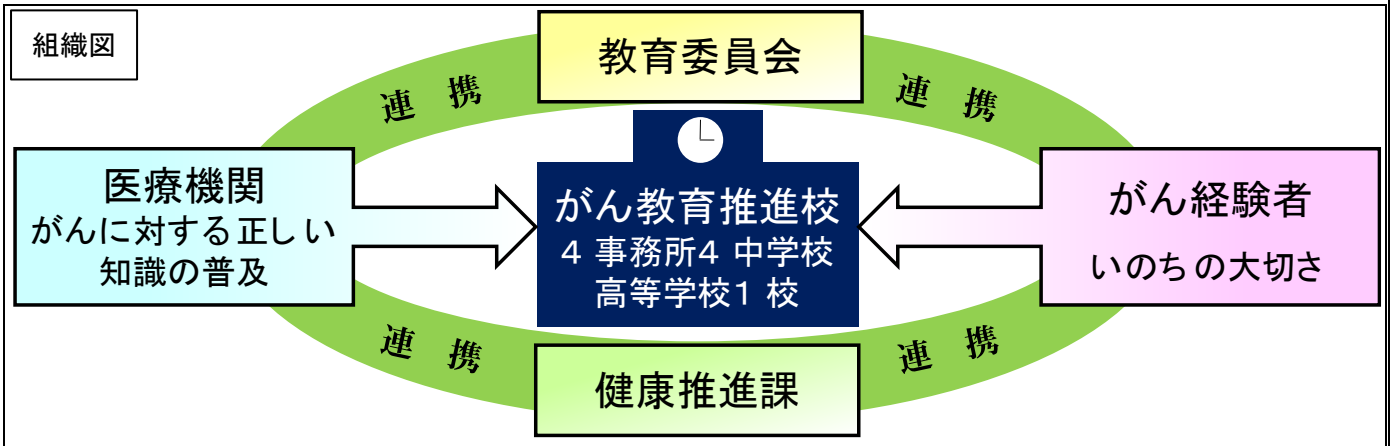
（１）自治体における取組

①　協議会について

（ア）推進委員（計１６名）

所　属	職　名	氏　名
加賀市医療センター	泌尿器科部長	中　井　正　治
金沢医科大学病院	がん看護専門看護師	我　妻　孝　則
石川県済生会金沢病院	副 院 長	龍　澤　泰　彦
萌の会	代　　表	和　田　真由美
公立松任石川中央病院	外科部長	石　井　　要
加賀市立東和中学校	教　　諭	武　部　修　一
金沢市立清泉中学校	指導教諭	輿　石　奈　央
七尾市立七尾中学校	教　　諭	中　井　秀　人
輪島市立東陽中学校	教　　諭	八　木　　豊
石川県立松任高等学校	教　　諭	大音師　さゆり
石川県健康福祉部健康推進課	課　　長	木　村　慎　吾
	技　　師	小　浦　理紗子
石川県教育委員会事務局保健体育課	課　　長	居　村　吉　記
	課長補佐	松　本　浩　和
	指導主事	田　中　佳　代
	指導主事	村　本　圭志朗

組織図



（イ）開催時期、検討内容

○第１回連絡協議会（於：県庁）　８月１日

・事業趣旨の共通理解及びがん教育の推進に向けた計画の確認、日程調整等

○推進協議会（於：各推進校）１０・１１月

・がんの教育に関する保健教育等の指導案作成

・研究授業の日程及び概要について打合せ

※学校の実情や生徒の実態等の外部講師との共有とそれに即した指導案検討の実施

※推進校と講師によるメール・ＷＥＢ会議システム等を活用した打合せの確認

○「がん教育講習会」（オンデマンド開催及び資料掲載）１月１９日～２月９日

・がん教育の推進に向けた行政説明・推進校の実践報告

・中央講師によるがん教育についての講演

○第２回連絡協議会（於：県庁）１月２３日

・推進校からの実践報告及び県教委で取りまとめた報告等の実施

・次年度の取組、がん教育の推進（外部講師活用等）の検討

② 教育委員会としての取組

・第１・２回連絡協議会の設定（事業についての説明・年間計画の確認、成果報告と次年度に向けて）
・推進校の選定・・・・中学校４校、高等学校１校
・外部講師の派遣（専門医等３名、看護師１名、がん経験者１名）
・学習指導案の検討
・「がん教育講習会」の開催（オンデマンド開催）１月１９日～２月９日
　解説「学校におけるがん教育の推進について」
　講演「がん教育　学びの先にあるもの」北翔大学教育文化学部教育学科　准教授　野口　直美　氏
　各推進校による実践報告書及び学習指導案（紙面紹介）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

関係機関等との連携により、外部講師を招聘し､学校におけるがん教育の推進を図ることができた。健康福祉部健康推進課との連携により、外部講師の活用体制の整備・運用について検討することができた。

（２）モデル校における取組

① 加賀市立東和中学校の取組（研究授業実施日：令和４年１１月２４日（木））

・外部講師（がん専門医）を活用した授業実践
・テーマ：正しいがんの知識を学び、どうすれば予防できるかを考える。
・教　科：保健体育 保健分野（授業時数：４時間）
・内　容：「生活習慣病などの予防（がんとその予防）」（３／４時）

がん専門医をお招きし、がん発症のメカニズムやその原因について学び、その予防方法について考えることをねらいとした授業を行った。がんの原因の一つとして、生活習慣等が影響していることについてグループで話し合うことで、自他の健康的な生活について考えを深めることができた。

② 金沢市立清泉中学校の取組（研究授業実施日：令和４年１１月３０日（水））

・外部講師（がん看護専門看護師）を活用した授業実践
・テーマ：がん予防や発病後について課題を見つけ、自分の知識、資料、話し合い活動等を通して、望ましい行動を考える。
・教　科：保健体育 保健分野（授業時数：４時間）
・内　容：「生活習慣病などの予防（がんについて考える）」（４／４時）

外部講師としてがん看護専門看護師をお招きして授業を行った。外部講師から「がん治療に関する緩和ケア」や「がん患者の生活の質」についてお話していただいた。また、事前アンケートの結果をもとに、生徒の疑問に対して説明していただき、生徒は自他の健康に対して考え、向き合うよいきっかけとなった。

③ 七尾市立七尾中学校の取組（研究授業実施日：令和４年１１月２５日（金））

・外部講師（がん専門医）を活用した授業実践
・テーマ：がんと向き合う社会において、自分や家族ができることについて考える。
・教　科：保健体育 保健分野（授業時数：４時間）
・内　容：「生活習慣病などの予防（がんの予防）」（４／４時）

外部講師としてがん専門医をお招きした。外部講師から最新の知識を学ぶことで、より深い学びに繋げるとともに、実際に関わったがん患者の事例を通して、「自己の問題」として、その予防について考えることをねらいとした。生徒は、得られた知識をもとに、自分や家族ができることについて考える活動を行った。

④　輪島市立東陽中学校の取組（研究授業実施日：令和４年１２月９日（金））

・外部講師（がん経験者）を活用した授業実践
・テーマ：がんについて正しい理解と、自分や家族について考える。
・教　科：保健体育 保健分野（授業時数：４時間）
・内　容：「生活習慣病などの予防（がんについての正しい理解と主体的な生き方）」（４／４時）

外部講師としてがん経験者の方をお招きした。外部講師の体験談には、「リアリティ」があり、誰もががんになる可能性があることや検診の大切さについて考えるきっかけになった。今回の授業を通して、生徒は、改めて自分の普段の生活習慣と健康について振り返る良い機会となった。また、他学年にも外部講師の話を同時配信し、学年ごとにテーマを設定し、学校全体として取り組んだ。

⑤　石川県立松任高等学校の取組（研究授業実施日：令和４年１２月６日（火））

・外部講師（がん専門医）を活用した授業実践
・テーマ：がん教育を通して健康への関心を高め、検診の重要性について考える。
・教　科：保健体育 科目保健（授業時数: ４時間）
・内　容：「生活習慣病などの予防と回復」（２／４時）

外部講師としてがん専門医の方をお招きした。打合せ段階から、学校や生徒の実状を外部講師と共有し、生徒の課題やテーマに沿った話をしていただき、生徒はがんや自身の健康について考え、他者と意見交流することで、健康について自分事として捉えられるようになった。

２．事業の達成度について

①推進校における生徒アンケートより（対象：中・高校生約 360 名）

質問項目等		実施前	→	実施後
3)c	「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。　※「そう思う」と回答	52.9%	→	67.4%
3)d	「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」　※「そう思う」と回答	49.9%	→	66.9%
⇒どちらの項目についても、事前・事後ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する生徒は 90%を超えており、生活習慣や検診についての意識は当初から高かったが、授業を通してさらに自分事として捉え、今後の健康な生活と関連付けて考えることができたと思われる。				
3)e	「がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。　※「どちらかといえばそうは思わない」「思わない」と回答	47.5%	→	66.3%
3)f	「がんになっても生活の質を高めることができる」　※「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答	52.3%	→	70.7%
⇒ がん患者に対する正しい認識や共生の視点等について学んだことにより、がんになっても、自分らしく充実した生活をおくれるように、がんそのものに対する治療についてはもちろん、生活の質を改善する取り組みについて考えを深めることができたと思われる。				

生徒たちは、がんに関する知識等について授業前からある程度有していたが、授業者による事前指導及び外部講師による科学的根拠に基づいた授業により、授業前より確実に知識の深化を図ることができた。また、授業でのグループワークや外部講師との対話を通して、命の大切さや共生の視点等についても理解を深め、自他の生き方等について考えることができたと思われる。がん教育を通して、自他の健康について考えることによって、生活習慣病等について自分事として捉える意識は確実に深めることができたが、実際に行動変容に繋がるように、保健体育科を中心に養護教諭等、学校全体での取組として継続して行っていくことが必要である。

また、ＩＣＴ機器を活用して他学年や他クラスと授業内容を共有するなど、外部講師をより効果的・効率的に活用する取組が工夫されるようになった。

推進校以外の先生方への普及については、本県開催の「がん教育講習会」をオンデマンド開催したことにより、保健体育科の教員のみならず、管理職や保健主事に対しても、中央講師による講演や本県指導主事による説明等を幅広く視聴していただけた。また、推進校による実践報告書等を紹介することで、広く周知するとともに、各学校での取組の参考にすることができた。

３．今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

●指導内容等の一層の啓発（外部講師を活用したがん教育について）
●外部講師の効果的な活用（学校のニーズ、授業形態に合わせた）
●外部講師の育成（校種に合った指導内容等）
●ＷＥＢ会議システムを活用した打合せや授業実践
●がん教育の取組の効果的な周知（保護者・一般）

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・地域に密着した外部講師の確保ということで、さらなる外部講師リストへの登録を募り、外部講師を活用しやすい体制づくりを引き続き行う。
・外部講師の積極的・効果的な活用について

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	山梨県

１．事業の具体的内容について

（1）自治体における取組

①　連絡会について

１．構成員　全員で　３２人

【内訳】

（委員）　○学識経験者・・・・大学教授等３人（社会医学、血液・腫瘍内科学、歯科口腔外科学）
○がん関連団体・・・患者支援団体等５人
○医療関係者・・・・医師会１人　歯科医師会１人　薬剤師会１人
看護協会・がん相談支援センター１人
検診機関１人　理学療法士会１人　作業療法士会１人　言語聴覚士会１人
○学校関係者・・・・小学校推進校２人　中学校推進校２人　高等学校推進校２人
養護教諭代表１人　保健主事代表１人
○教育委員会・・・・学校保健技師１人　市教育委員会２人
○県知事部局・・・・福祉保健部健康増進課１人
○県教育委員会・・・保健体育課４人

（事務局）○県教育委員会・・・保健体育課３人

２．開催時期、検討内容

	実施期日	内容等
第１回 がん教育推進連絡会	令和４年６月２７日（月）	（1）文部科学省がん教育総合支援事業について （2）山梨県がん教育総合支援事業について （3）その他
第２回 がん教育推進連絡会	令和５年２月９日（木）	（1）事業の取組報告 （2）がん教育推進校実践報告 （3）事業の成果と課題について （4）その他

②　教育委員会としての取組

ア　がん教育指導者研修会の開催

実施期日：令和５年１月３１日（火）　　対象：教職員・がん教育外部講師		
講義		聖心女子大学現代教養学部教育学科教授 聖心女子大学グローバル共生研究所長 聖心女子大学　　副学長　　植田　誠治　氏 「学校におけるがん教育の考え方・進め方」
がん教育推進校実践報告	小学校部会（オンライン）	甲府市立甲運小学校　　教諭　　清水　光　氏 【外部講師】 サンスマイルえがお　　代表　　清水　美智子　氏
	中学校・高等学校部会（参集）	甲斐市立竜王中学校　　教諭　　宮原　知佳　氏 山梨県立吉田高等学校　　教諭　　渡邊　勇人　氏 【外部講師】 山梨県厚生農業協同組合連合会 山梨県厚生連健康管理センター 企画広報部　健康企画課　課長・保健師　　山下　真紗代　氏

イ　がん教育外部講師者研修会の開催（オンライン研修、動画限定公開）

実施期日：令和４年７月２２日（金）　　対象：がん教育外部講師			
講義	山梨大学大学院総合研究部 医学域社会医学講座 教授　山縣　然太朗　氏 「外部講師の心得と児童生徒に学んでほしいこと」	山梨大学医学部 血液・腫瘍内科学講座 教授　桐戸　敬太　氏 「がん治療医の立場から」	NPO 法人　がんフォーラム山梨 理事長　若尾　直子　氏 「義務教育としてのがん教育 外部講師の役割」

ウ　がん教育推進校における取組

・がん教育推進校（小学校１校・中学校１校・高等学校１校）を指定、授業公開及び授業検討会

・取組内容の詳細については、「（２）がん教育推進校における取組」に記載

エ　がん教育外部講師一覧表の更新・申請の手続き周知

オ　事業成果の普及

・山梨県教育委員会主催のがん教育研指導者研修会において、がん教育推進校による実践報告

・山梨県がん教育総合支援事業報告書を作成し、各学校、関係機関等に配付

・がん教育リーフット（本県で作成）を修正・更新し、各学校に配付

・保健体育課ホームページにがん教育に関する情報を掲載

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・県がん対策推進協議会に出席し、がん教育総合支援事業における取組、学校の取組等について共有した。

・本県で作成しているがん教育リーフレット内の統計データについて、福祉保健部と連携しながら確認・更新した。

（２）がん教育推進校における取組

○がん教育授業準備会　令和４年９月１３日（火）

	甲府市立甲運小学校	甲斐市立竜王中学校	山梨県立吉田高等学校
実施期日	令和４年１１月２８日（月）	令和４年１０月１９日（水）	令和４年１１月１４日（月）
公開方法	オンライン	参集	参集
	※学級担任と外部講師による ＴＴ	※授業公開日は指導者のみ ※11 月 18 日外部講師による講演会（３学年対象）	※学級担任と外部講師による ＴＴ ※11 月９日外部講師による講演会（１学年対象）
	対象：５年２組 教科：特別活動（学級活動） 題材名：がんから学ぼう！ 自分にできること 指導者：夏目　周一郎 外部講師：サンスマイルえがお 清水　美智子 氏	対象：３年３組 教科：保健体育（保健分野） 単元名：個人の健康を守る 社会の取組 指導者：宮原　知佳 外部講師：山梨県厚生連 健康管理センター 保健師 原　美咲　氏	対象：１年１組 教科：保健体育（科目保健） 単元名：現代社会と健康 指導者：渡邊　勇人 外部講師：山梨県厚生連 健康管理センター 保健師 小佐野　亜樹　氏
がん教育推進連絡会委員 ※授業検討会参加者	NPO 法人　がんフォーラム山梨 理事長　若尾　直子 サンスマイルえがお 代表　清水　美智子	NPO 法人　がんフォーラム山梨 理事長　若尾　直子 山梨県厚生農業協同組合連合会 課長　志村　直樹	NPO 法人　がんフォーラム山梨 理事長　若尾　直子 山梨県厚生農業協同組合連合会 課長　志村　直樹

	山梨県厚生農業協同組合連合会 課長　志村　直樹 甲府市教育委員会 指導主事　山田　睦子 甲府市教育委員会 学力向上専門員　加賀美　猛 甲斐市教育委員会 指導監　金丸　徹 保健体育 課長　金井　哲也 保健体育課 指導主事　清水 宏次 事務局	サンスマイルえがお 代表　清水　美智子 甲斐市教育委員会 指導監　金丸　徹 保健体育 課長　金井　哲也 保健体育課 指導主事 渡辺 健太郎 事務局	サンスマイルえがお 代表　清水　美智子 保健体育課 課長　金井　哲也 保健体育課指導主事　穴水 史彦 事務局

◇外部講師との連携について～がん教育推進校から～◇

・当日までの丁寧な打ち合わせは、授業のイメージを共有し、効果的な授業へとつながる。

・外部講師の立ち位置、役割を明確化することで、専門分野を中心に授業を展開することが可能となる。

・外部講師の助言が、児童生徒の張り合いや自信につながる。

【課題】

・授業のねらいや内容に沿った外部講師の活用

・講師と児童生徒が密接に関われるような工夫や声かけ、場面設定　→　講師とのより綿密な打ち合わせと、生徒への事前指導の重要性

2．事業の達成度について

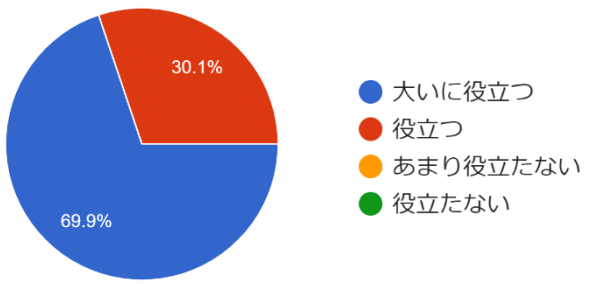
（1）がん教育推進連絡会の実施

がん教育推進連絡会において、学校におけるがん教育について意見を交換したり、成果や課題を共有したりした。終了時のアンケート結果では、「学校の取組に対して連絡会は十分に支援が行えた」と全員が回答した。「情報を児童生徒に正しく伝えていくためのポータルサイトのようなものをつくれるとよい」「様々な職種とのネットワークを構築していきたい」といった前向きな御意見をいただいた。一方、外部講師を活用するに当たっての各学校の予算を確保してほしいという課題も挙げられた。

（2）がん教育指導者研修会の開催

参加者アンケートの結果

○研修会は、学校におけるがん教育の推進に役立つ内容だったか。



〈参加者の感想〉

・がん教育の必要性について改めて学ぶことができた。学校保健に関わる養護教諭、保健主事だけではなく、管理職や教職員にもその必要性を理解してもらうことが大切だと思った。

・がんについての正しい知識を知ることが大切だと改めて思った。教師が正しい知識を子供たちに伝えていくために外部講師と連携していくことも考えていきたいと思う。

・がん教育の目標の意図を理解することができた。目指す子ども像が明確になり、がん教育の重要性を改めて実感した。

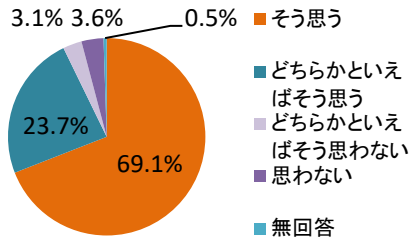
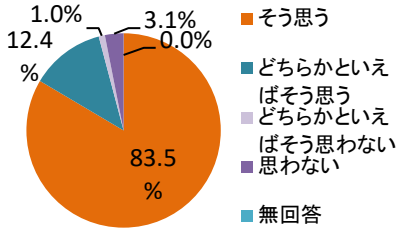
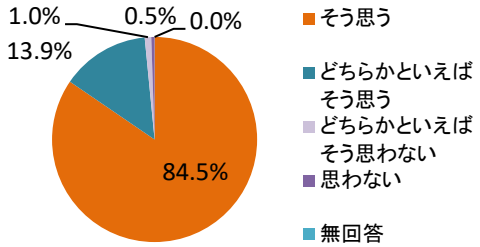
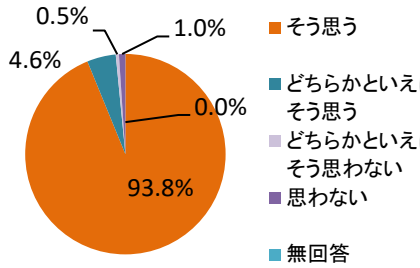
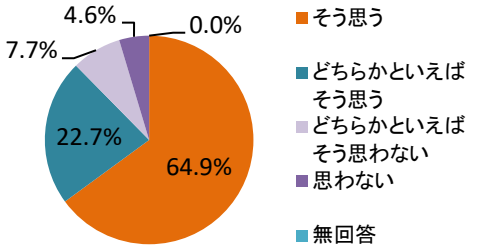
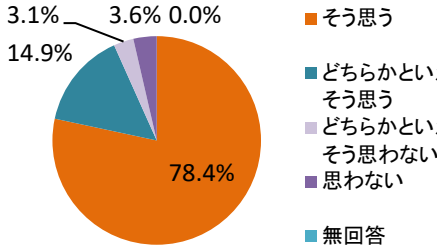
・がんを題材に取り入れることで、多様性や共生の学びにもつながることが理解できた。 外部講師の情報をたくさんいただけるとありがたい。

・本校では養護教諭ががん教育を６年生に対して行った。その際、大いに参考になったのは文部科学省から出されている補助教材だった。指導後は、時間の足りなさや子供自身、家族への配慮について課題を感じたが、今回の研修で、その課題を今後に生かす手立てを学ぶことができた。今後は、やはり外部講師を招いて指導していくこと、招く前に担任や

養護教諭からも指導し、より良く外部講師の方の経験や知識を子供たちに学ばせていくことを実践していきたい。

・がん教育の取組により、がんという病気を正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考えることが目的となるが、更にはこの教育を通して、病気とは何かを知り、どのようにすれば病気を予防できるかを考え、実践行動する。生涯にわたるヘルスプロモーションの獲得の一助につながるような対応が大切と思う。この事は歯科の健康教育にも言えることで、歯・口の健康教育を通していかに病気というものを理解し、将来の健康に結び付けられるかが大切だと思う。

（3）がん教育推進校における取組

	事業実施前	事業実施後
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う		
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい		
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う		

がん教育推進校（3校）におけるアンケート結果から、実施後にがんやその予防について、主体的に考える児童生徒が増えた。また、健康への関心や健康に対する意識の向上も見られた。

3．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

・学校教育全体を通じた教科等横断的な視点でのがん教育（カリキュラム・マネジメント）
・学校におけるがん教育の実践事例の積み上げ、各学校への周知
・単発に終わらず、継続した学校におけるがん教育の展開
・調べ学習を取り入れる場合は、児童生徒が正しいで情報を得ることが大切。信頼できる情報源を指導者が示すこと。
・教職員のがんに関する知識や理解の向上

4．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・外部講師を活用したがん教育の実施率を今後も伸ばしていく。
・外部講師を活用するに当たっての各学校の予算確保
・県が作成している外部講師一覧表や、外部講師の活用方法についての更なる周知

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	岐阜県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員　１４名

県医師会１名（内科医）、がん診療連携拠点病院１名（がん専門医）、大学教授１名、 外部講師代表２名（呼吸器内科医、がん経験者）、県健康福祉部保健医療課１名、養護教諭２名、 がん教育推進指定校授業者２名（高等学校保健体育科教諭、中学校保健体育科教諭）、 県教育委員会体育健康課事務局４名

２．開催時期、検討内容

■第１回推進協議会　【令和４年１０月１９日（水）岐阜県総合教育センター】

〇令和４年度のがん教育推進の重点について

・がん教育の手引きの掲載内容の確認

・がん教育推進指定校授業研修会兼指導者講習会の実施内容の確認

・外部講師リストの作成上の留意点の確認

〇学校におけるがん教育推進上の課題とその解決に向けて

・保健体育を柱とした各校におけるがん教育の計画的な推進

・外部講師の確保及び継続的な外部講師派遣システムの構築

■第２回推進協議会　【令和５年１月１３日（金）岐阜県総合教育センター】

〇令和４年度のがん教育推進の重点について（成果と課題）

・外部講師を活用した推進指定校モデル授業のビデオ視聴

・モデル授業実施前後のアンケート結果並びに授業研修会及び指導者講習会報告を踏まえた意見交流

〇令和５年度の学校における「がん教育」の推進について

・県内５地区でのがん教育推進指定校授業研修会兼指導者講習会の実施

・教育課程研究協議における保健体育科教諭を対象にした研修の実施

②　教育委員会としての取組

■令和４年度　がん教育推進指定校授業研修会兼指導者講習会

５行政地区の各１校を推進指定校に指定し、外部講師を活用した授業の普及・啓発に取り組んだ。教育研修課の研修申込システム及び、医師会、がん患者団体に案内を出し、合計８０名の参加があった。

モデル授業参観後の研修会では、外部講師、授業者、県教育委員会指導主事が講師となり、健康教育の一環としてのがん教育の推進について、研究討議を行った。

中学校	高等学校
【岐阜地区】岐阜市立境川中学校 外部講師：岐阜大学医学部附属病院　医師 【中濃地区】可児市立中部中学校 外部講師：中濃厚生病院　看護師 【東濃地区】瑞浪市立瑞浪中学校 外部講師：県立多治見病院　緩和ケア医師	【飛騨地区】岐阜県立吉城高等学校 外部講師：高山赤十字病院 【東濃地区】岐阜県立揖斐高等学校 外部講師：大垣市民病院　医師 ：がん哲学外来メディカルカフェ シャチホコ記念　代表

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・県健康福祉部保健医療課に「学校におけるがん教育推進協議会」の委員に就任していただき、岐阜県がん対策の主管課として協議会で助言をいただいた。

・保健医療課主催の「岐阜県がん対策推進会議」に参加し、第三次岐阜県がん対策推進計画における「学校におけるがん教育」について関係機関と共通理解を図った。

・保健医療課から、がん診療連携拠点病院及び患者団体に対する外部講師登録を働きかけていただいた。

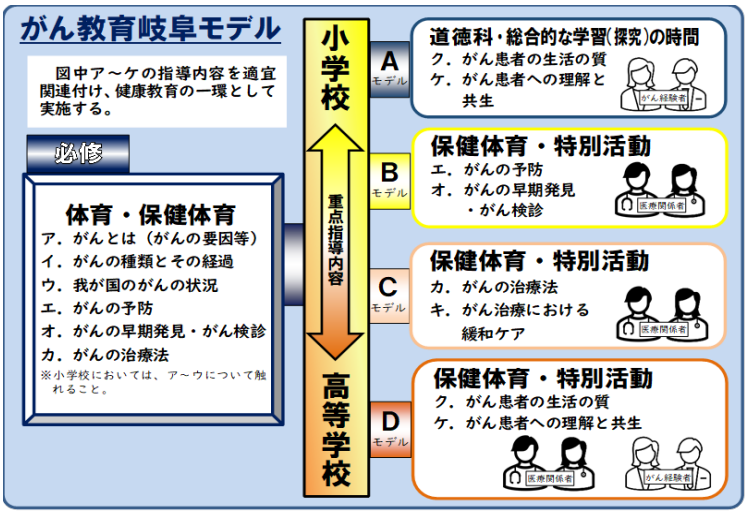
・市町村教育委員会からのがん教育講師派遣依頼に対して、受付窓口を体育健康課が担い、県医師会との調整を体育健康課、がん診療連携拠点病院及び患者団体との調整を保健医療課が行うなど、体育健康課と保健医療課で連携して対応する体制を整えた。

（２）がん教育推進指定校における取組

【内容】

・中学校３校、高等学校２校をがん教育推進指定校に指定し、モデル授業の公開及び授業研修会兼指導者講習会を通して、外部講師を活用したがん教育の普及・啓発を図る。

・①外部講師との打合せシート、②学習指導案及び指導資料、③授業動画を HP に掲載し、推進指定校の実践を参考にした各校でのがん教育の推進を促す。



■外部講師を活用したがん教育モデル授業

〇令和４年１１月１５日（火）　岐阜県立吉城高等学校　保健体育　**Dモデル**

【目　標】がん患者の気持ちを考え、支え合って生きていくために大切なことを考えよう。

【内　容】〇ディスカッション①〔個人追究⇒グループ交流⇒全体交流〕

「大切な家族ががんになって、余命半年と宣告されたら」

〇ディスカッション②〔個人追究⇒グループ交流⇒全体交流〕

「あなたが考える、がん患者が暮らしやすい社会とは」

【留意点】・外部講師がディスカッションに加わり、即時評価や補足説明をすることによって、生徒の安心や納得、新たな知識の獲得につなげられるようにした。

〇令和４年１１月２２日（火）　瑞浪市立瑞浪中学校　特別活動：学級活動　**Dモデル**

【目　標】自分の家族ががんになったとき、家族のために自分にできそうなことを考えよう。

【内　容】〇ロールプレイ①　〔グループ交流⇒全体交流⇒講師の話〕

「検査結果から親が大腸がんと宣告される」

〇ロールプレイ②　〔グループ交流⇒全体交流⇒講師の話〕

「親のがんが末期で、この先長くないと宣告される」

【留意点】・不安を助長しないように授業用に省略していることを補足説明したうえで、医師による告知場面のロールプレイによって、自分事として主体的に考えることができるようにした。

〇令和４年１１月２５日（金）　可児市立中部中学校　特別活動：学級活動　**Cモデル**

【目　標】自分の家族ががんになったとき、家族のために自分にできそうなことを考えよう。

【内　容】〇がん治療に伴う副作用等について　〔講師の説明〕・手術療法　・放射線療法　・化学療法

〇家族のために自分にできそうなこと　〔個人追究⇒グループ交流⇒全体交流〕

〇仲間の実体験を聴く　少年の主張作文「命」

【留意点】・『副作用』という視点で、治療に伴う体や心、日常生活で生じる「つらさ」の具体を説明していただくことで、生徒が実生活と関連させ、主体的に考えることができるようにした。

〇令和４年１２月１日（木）　岐阜市立境川中学校　保健体育（２時間目）　**B**モデル

【目　標】がんを予防するためにできることを考えよう。

【内　容】〇がんの予防について、家族向けの改善プランの立案

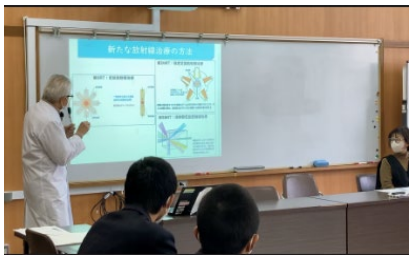
・がん検診受信率向上プラン

・がんリスク低減生活習慣改善プラン

〇グループ発表　⇒　講師の指導・助言

【留意点】・教科担任が行った前時の授業内容と授業後の生徒へのアンケート結果を外部講師に伝えておくことで、講師とともに行う２時間目の学習内容の焦点化・具体化を図り、指導内容の重複を避け、講師の指導の効果を高めた。

〇令和４年１２月１４日（水）　岐阜県立揖斐高等学校　保健体育　**D**モデル



【目　標】がん患者の気持ちを考え、支え合って生きていくために大切なことを考えよう。

【内　容】〇前時の学習におけるがんに関する疑問や不安に対する講師からの説明〔医師→がん経験者〕

〇がんになった自分や家族のためにできそうなこと

〔個人追究⇒グループ交流⇒全体交流〕

〇がん患者が暮らしやすい世の中とは

〔個人追究⇒グループ交流⇒全体交流〕

【留意点】・生徒の疑問や不安を外部講師に伝えておくことで、医師・がん経験者に期待する役割を明確にするとともに、外部講師の専門的知識や経験が生かされるようにした。

２．事業の達成度について

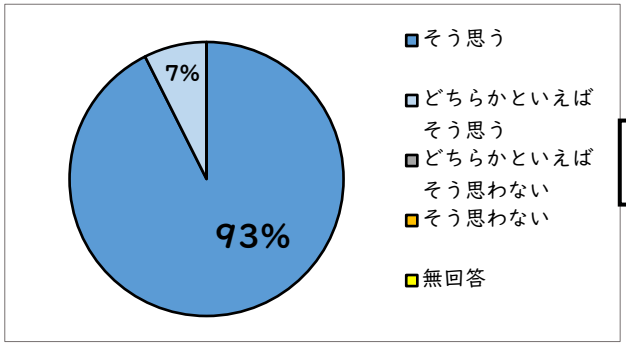
（１）がん教育推進指定校　意識調査（一部抜粋）　対象：３中学校３５８人、２高等学校６３人

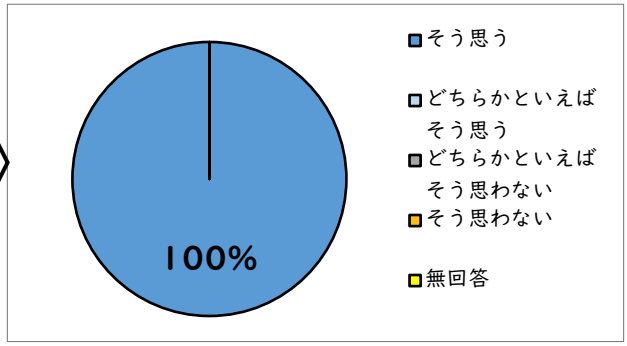
推進指定校の生徒に対する事業前と事業後の意識の変容は以下のとおりである。

■岐阜県Ｂモデル実施校（27 人）　岐阜市立境川中学校

※『がんの予防』、『がんの早期発見』及び『がん検診』の重要性についての理解を重点

質問：たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある

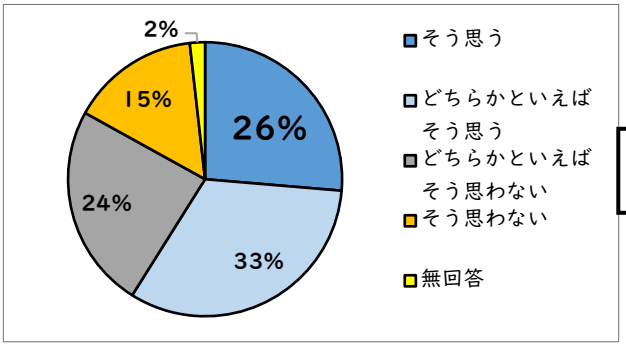


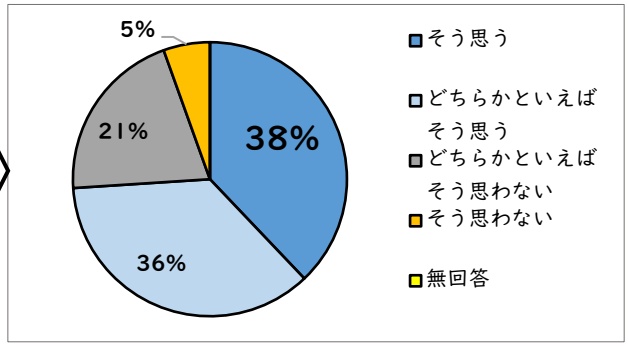


■岐阜県Ｃモデル実施校（219 人）　可児市立中部中学校

※『がんの治療法』及び『がん治療における緩和ケア』への理解を重点

質問：がんになっても生活の質を高めることができる

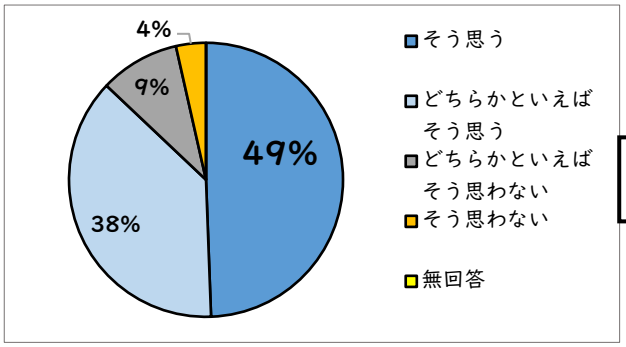


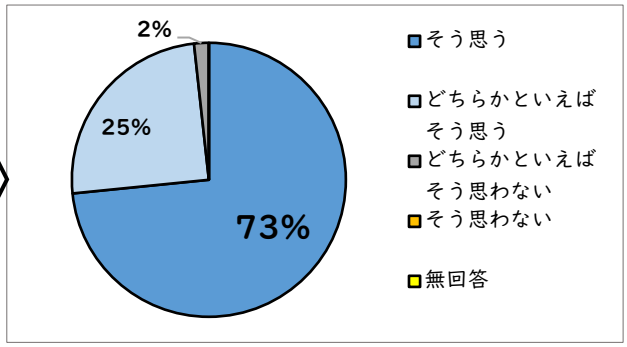


■岐阜県Ｄモデル実施校（173 人）　瑞浪市立瑞浪中学校・岐阜県立吉城高等学校・岐阜県立揖斐高等学校

※『がん患者の生活の質』及び『がん患者への理解と共生』への理解を重点

質問：がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい





（２）評価

○「がん教育岐阜モデル」として、保健体育科においてがんに関する基本的な内容を学んだあと、各学校の指導の重点を定め、外部講師を活用したプラス 1 時間の授業を実施することによって、生徒の意識の変容につなげることができた。

○既習の内容や主な学習活動、講師の役割等をまとめた「打合せシート」を活用することによって、外部講師との連携を円滑に進め、外部講師活用のよさが生かされた生徒にとって効果的な学習機会となった。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○令和 5 年度は、令和 3 年度に全面実施となった新学習指導要領のもと、中学 2 年生でがんについて学んできた生徒が高等学校に進学する年度となる。このことを踏まえ、各学校段階における系統的な指導の実施に向けて、体育・保健体育科教員に対する研修を充実させる。

○医師やがん経験者が作成したスライド資料は、講師の経験や専門性が凝縮された内容構成となっている。より多くの外部講師の協力を得てがん教育を推進するために、外部講師のための指導資料を作成していく。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

■外部講師リストの拡充

・がん診療連携拠点病院及びがん患者団体との連携により、県内全ての地区で、学校の派遣申請に対応できるリストを作成することができたが、学校数に対して対応できる外部講師の数が少ない。指導資料のさらなる一般化を進め、より多くの外部講師の協力を得やすい環境整備を進めていく。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	静岡県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　検討委員会について

１．構成員

医師１人（静岡県医師会副会長　専門：内科、小児科、循環器科）、がん経験者２人（元学校関係者）、対がん協会１人、患者会１人、行政２人（健康福祉部疾病対策課長、がん対策担当）、モデル校２人（高等学校教頭、中学校教頭）、総合教育センター指導主事２人（高等学校保健体育、中学校保健体育）、教育事務所２人（養護教諭）、県教育委員会事務局４人

２．開催時期、検討内容

＜第１回＞

期日：令和４年７月 13 日（水）、場所：静岡県庁

内容：静岡県のがん対策、事業概要の説明、モデル校における実施計画とがん教育の実践紹介（外部講師としての実践、患者会としての実践）、がん教育の現状と課題の共有と今年度の取組の検討

＜第２回＞

期日：令和５年２月 13 日（月）、場所：CSA ペガサート会議室

内容：事業報告、モデル校における実践報告、成果と課題の協議、来年度のがん教育の推進・がん教育の手引（案）の検討

②　教育委員会としての取組

＜がん教育の手引（案）の作成＞

・『学校におけるがん教育の手引』を作成し、第２回がん教育検討委員会で検討した。

＜外部講師（がん経験者）を対象としたがん教育に関する研修会の開催＞

期日：令和５年１月 19 日（木）、場所：もくせい会館

内容：静岡県のがん教育について、外部講師（がん経験者）を活用したがん教育についての協議

＜がん教育における外部講師派遣可能病院一覧の活用＞

・令和３年度に周知した外部講師派遣可能病院一覧から外部講師派遣を希望する学校に対して県教育委員会が窓口となり、医療機関と学校を繋ぐ役割をした。高等学校、中学校、特別支援学校各１校で外部講師（病院）を活用した取組をした。

＜事業成果の普及＞

・養護教諭講習会（８月小中学校、高等学校・特別支援学校）、保健主事研修会（９月高等学校・特別支援学校、10 月小中学校）でがん教育について周知をした。加えて、保健主事研修会では、令和３年度がん教育総合支援事業のモデル校が「がん教育実践報告」を行った。

・モデル校の県立浜松工業高等学校では、近隣の学校に教科保健の授業を公開し、情報交換を行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を限定して実施した。

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

＜県健康福祉部医療局疾病対策課がん対策班との連携＞

・「静岡県のがんの現状と対策」について、モデル校に資料提供した。

＜静岡県対がん協会との連携＞

・静岡県対がん協会が主催する「ピア・サポート研修会」にて、静岡県のがん教育について紹介し、外部講

師としての登録を依頼した。

（２）モデル校における取組

＜静岡県立浜松工業高等学校＞

○テーマ

・がんについての正しい知識を身につけ、自らの健康を適切に管理し、改善していくことを意識させる。

・自他の健康に対する共感的な理解を深め、共に生きることの大切さを考える。

○取組内容

期日・対象	実施科目等	内容
7月11日（月） 全校	LHR 薬学講座	講演：「肝臓専門医によるウイルス性肝炎からの肝臓がん」 講師：浜松医科大学医学部付属病院肝臓内科診療助教　兼 肝疾患連携相談室福室長　伊藤　潤　氏
9月26日（月） １年	保健体育科	教科保健「生活習慣病の予防と回復」 「がんの原因と予防」「がんの治療と回復」 ・がん予防のためのがん検診受診の重要性を学び、検診受診率を上げる方法を考えた。
9月 ２年	保健体育科	教科保健「医療制度とその活用」 ・医療保険を活用した治療費の負担や支払について学んだ。
9月	図書課	図書室にがん教育に関する本を配置
9月、11月 ２年	理科	生物基礎　生物「免疫」（9月）、「遺伝子」（11月） ・「免疫」で免疫とがん、「遺伝子」でDNAの損傷と修復、遺伝子情報の発見、転写調整について学んだ。
10月 ２年	家庭科	「食品の表示と安全」 ・食品表示の中に避けたい食品添加物をグループ内で分担して、調べ学習をした。
４月～10月 ３年	課題研究	・理数工学科では、亜硝酸ナトリウムの使用目的と使用量を調べ、実際にハムやベーコンなどから亜硝酸ナトリウムを抽出・定量して考察し、ポスターセッションで発表した。 ・「がん」について調べ学習を行い、保健委員会に発表した。 ・壁新聞「保健だより特別号」を作成し、保健室前に掲示した。
11月21日（月） １年	LHR 思春期講座	講義：「高校生の性について」 講師：聖隷浜松病院　リプロダクションセンター長・ 総合性治療科部長　今井　伸氏 ・男性の前立腺がんで受診が必要な場合について、女性の子宮頸がんでワクチン接種について知識を得た。
10月31日（月） １，３年	LHR がん教育 講座	講演：がんの正しい知識を身につける 講師：聖隷浜松病院　乳腺科医師　吉田雅行氏、 緩和医療科部長　山田博英氏
11月29日（火） 教職員（20人）	学校保健 委員会	講義「喫煙と肺がん」 講師：学校医　鈴木　秀樹氏
年間	保健だより	・毎月、がんについての記事を掲載

＜長泉町立北中学校＞

○テーマ

・生徒が、生活習慣病についての知識を学習し、がんの知識やがんになる原因、治療について理解を深め、健康的な生活を送るようにする。

・生徒が、がん教育を通して、生きることの意義や命の大切さを実感し、思いやりの心が育つようにする。

・教職員が、がん教育研修や授業の実施、講演会を通して、生徒と一緒に健康について意識を高める。

○校内組織

・実行委員を校長・教頭・教務主任・養護教諭・保健主事・道徳主任・体育主任とし、本部、授業班、講演班、広報班に分かれて取り組んだ。

○取組内容

期日・対象	実施科目等	内容
９月中旬 ２年	道徳	主題：「がんになってよかったと言いたい」 ・目標を「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間としていきることに喜びを見いだすことができる」とし、全クラスで行った。
10 月 11 日（火） ２年	保健体育科	保健分野「健康な生活と病気の予防」 ・目標を「がんという病気について知り、どのようなことを意識して生活していったら良いかを考えることを通して、がんの仕組みや原因などの基本的な知識を理解するとともに、がんを自分事としてとらえることができる」とした。
10 月 17 日（月） 教職員	がん教育 研修	講演：「がん教育をすすめるにあたって」（オンライン形式） 講師：静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師　看護主任　知念　正佳氏
１月 23 日（月） ２年	がん教育 講演会	講演：がん患者としての思いや考え方を学ぶ 講師：つくば開成高等学校沼津キャンパス長　菊池　基　氏 （がん教育検討委員（がん経験者））
年２回	保健だより	・がんについての記事を掲載

２．事業の達成度について

（１）自治体における取組（検討委員会事後アンケートより）

①　検討委員会について

○検討会として十分な支援が行えた（30.0%）　行えなかった（50.0%）　無回答（20.0%）

○新型コロナウイルス感染症の影響で、検討委員の種別を生かした支援の場ができなかったため、達成度が低くなった。

（感想）・年２回の会議では、具体的な支援を行うことは困難であると考える。

・まだ、各学校現場でがん教育ができるところまできてはいないのではないか。学校現場の教育の自主性と教育委員会の指導との役割分担の難しさをどうすればよいか悩む。

②　教育委員会としての取組

＜がん教育の手引の作成＞

・学校においてがん教育が理解されていない現状から、周知を促すために『学校におけるがん教育の手引』を作成し、次年度、手引を活用した周知を目指す。

＜外部講師（がん経験者）を対象としたがん教育に関する研修会の開催、静岡県対がん協会との連携＞

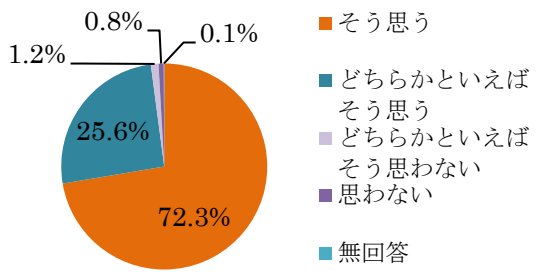
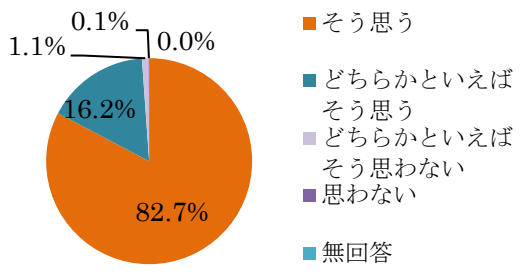
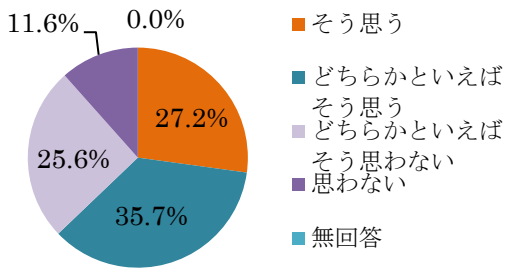
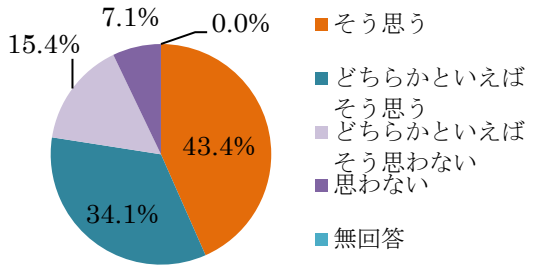
・がん経験者の登録者が増加した。（令和４年度新規登録５人）

（２）モデル校における取組（児童生徒事前事後アンケートより）

・がんを正しく理解できたこと、今までのイメージだけでの判断を改め、今から自分にできること、した方がいいことを考えることができるようになった。

・がん教育を通して、自己や他者に対して大切にする心が育成された。

＜アンケート結果より抜粋＞

項目	実施前	実施後
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ		
がんになっても生活の質を高めることができる		

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（１）小学校、特別支援学校での外部講師の活用を促すために、両校種をモデル校に追加

・令和５年度も本事業を活用し、小学校、特別支援学校をモデル校に加え、実践事例を周知する。

（２）「がん教育における外部講師派遣可能病院一覧」「外部講師（がん経験者）リスト」の整備

・外部講師をどの学校でも活用できるように、県健康福祉部医療局疾病対策課がん対策班、静岡県対がん協会だけでなく、他の患者団体との連携を図り、登録者数を増やす。

（３）外部講師（がん経験者）と教職員との研修会の実施

・がん教育検討委員の種別を生かして研修会の講師等を依頼し、静岡県のがん教育のねらいや外部講師活用の有効性等を共通理解し、効果的な取組に繋げる。市町教育委員会担当者の参加も促して、県内全体に広がるようにしていく。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

（１）「がん教育」を学校保健計画に位置付けて、健康教育の一環として組織的・計画的な実施の促進

・第３次静岡県がん対策推進計画で、『学校保健計画に位置づけてがん教育を実施した小学校・中学校・高等学校の割合 100%』を目指しているので、体育主任、保健主事、養護教諭を対象とした研修会等で、モデル校の実践や効果などと共に周知する。手引を完成させ、令和５年度から活用していく。

（２）外部講師活用にかかる諸経費の予算化

・本事業における予算内で、まずは、病院の外部講師活用にかかる諸経費の補助について検討していく必要がある。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	愛知県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

がん教育総合支援事業協議会委員　１５人

（内訳）

県医師会１名、　がん拠点病院医師２名（緩和ケア・疫学研究）
がん患者会１名、県保健医療局１名、大学准教授１名、
中学校校長１名、高等学校校長１名、中学校養護教諭１名、高等学校養護教諭１名、
小中学校 PTA 代表１名、高等学校 PTA 代表１名県教育委員会３名

２．開催時期、検討内容

第１回協議会　　令和４年７月５日（火）	第２回協議会　令和５年２月８日（水）
・事業計画及びその内容等の説明 ・県のがん教育の取組状況等の説明 ・がん教育の推進に向けての意見交換	・事業報告 ・成果と課題、今後の予定について

②　教育委員会としての取組

ア　がん教育研修会

がんについての正しい知識及び理解を深め、実践につながる機会をつくり、各学校でさらに具体的な取組につなげるため、教職員、がん教育外部講師を対象にした研修会を行った。

《日　　時》　令和４年１１月２５日（金）
《場　　所》　東海市芸術劇場　大ホール
《講　　演》　「高等学校におけるがん教育の進め方」
《講　　師》　国立教育政策研究所　教育課程研究センター
研究開発部教育課程調査官　　横嶋　剛　氏
《参加者》県立学校等体育担当教諭２２０名、がん教育外部講師１３名
がん教育総合支援事業協議会委員　※県立学校等体育担当者会の研修と兼ねた

イ　がん教育外部講師派遣事業

・学校や地域の実情に応じたがん教育の推進を図るため、学校での授業や講演、地域の教員研修等に申込みのあった学校（地区）にがん教育外部講師を派遣した。
・保健医療局の協力により作成した「外部講師リスト」を県内の公立学校に周知し、活用により、地域の専門医と学校間のネットワークの構築を目指した。

《派遣事業期間》　：令和４年７月１１日～令和５年１月末まで
《派遣先》　：25 学校（小学校 15 校、中学校６校、高等学校４校）
３地区（教職員対象研修会）

ウ　研修や教材の周知、事業成果の普及・啓発

文部科学省主催の研修会や教材の周知及び、学校保健関係者等の研修の機会に前年度の事業の様子や教育委員会のウェブページに掲載していることを周知し外部講師の活用促進を図った。今後も事業成果の普及に努めていく。

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・毎年、県保健医療局から、がん診療連携拠点病院及びがん診療連携拠点病院に所属する医療従事者のうち、中学校、高等学校におけるがん教育の実施にご協力いただける方を対象にしたリストを提供していただいている。次年度の行事予定が立てやすいように 12 月にリストを学校に周知している。

《　リスト掲載の外部講師：がん拠点病院を中心とした医療従事者約１４０名　》

・県保健医療局主催の「県がん対策部会」の事務局として県教育委員会から参加し、愛知県のがん対策の中の、がん教育に関する事項について協議会構成員に対し説明している。

（２）モデル校における取組　（一部記載）

実施校実施日 【外部講師】	実　施　事　項
長久手市立北中学校 11月4日 【医療従事者】	3年総合的な学習「命の学習講座」「当たり前」の大切さをみんなで考えよう 小児病棟で勤務し、様々な疾病と闘っている子供と最前線で接している外部講師より、「命」について心に迫る話を聞くことで、生徒自身が生きる意味や今後の生き方について考える機会とした。
岡崎市立藤川小学校 11月14日 【がん経験者】	6年特別の教科道徳　「命の大切さ」とは がん経験者の話を聞き、命の大切さ、自分のこれからの生き方について考えさせることをねらいとした。がんが身近な病気であるとともに、自他の命の大切さ、それを守るための健康的な生活についての意識を高めた。
愛知県立古知野高等学校　定時制課程 11月14日 【医療従事者】	1年特別活動　HR「がんについて考えよう」 がんと生活習慣は関係が深いことから、自らの生活習慣を振り返り、生涯にわたって健康に過ごす意識を高める。定時制の生徒は学校外の社会と接する機会が多いため、がん共生社会の中で生きていく上で必要な正しい知識をつけることをねらった。
豊田市立竜神中学校 11月25日 【がん経験者とそのご家族】	学校保健委員会（コース別学習）「自分らしく生きていく～同世代に伝えたいがんの話し～）」 同世代のがん経験者の講師の話を聴くことを通して、がんを身近なもの、自分事としてとらえるとともに、自分自身の生き方についても考えることができるようにする。「自分らしく生きる」ということについて意見交流も行った。
扶桑町立山名小学校 11月29日 【がん経験者】	5年学級活動　「がん」を通して、いのちの大切さについて考えよう 外部講師より、がんを経験したことにより変化した「生きること」へ考え方や思いについて聞いた。当たり前の日常の大切さ、健康に気をつけて1日1日を大事に過ごすこと、命の大切さについて考えさせた。
稲沢市立平和中学校 12月2日 【医療従事者及びがん経験者】	1年総合的な学習の時間　「健康についての探究学習」がんと共に生きるとは？ 事前の調べ学習をもとに外部講師の指導につなげ、がんについて正しく理解し、予防につながる生活習慣や早期発見の大切さを学ぶとともに、将来、自身や身近な人ががんになったときの、がんとのよりよい向き合い方を考えさせた。
豊田市立五ケ丘小学校 12月21日 【がん経験者とそのご家族】	6年総合的な学習の時間「がんとともに生きる　～今　私にできることは～」 6年生で行う「いのちの学習」に「がん教育」を位置づけて、困難を抱えながら夢をもって力強く生きる若い外部講師の心の持ち様や生き方を通して、命の大切さや生きることの尊さ、自分のこれからの生き方について考えさせた。
高浜市立高浜小学校 1月13日 【がん経験者】	6年学級活動　命の指導「がんを学ぼう～あなたと大切な人の命のために～」 「いのち」「健康」「いきる」というキーワードを中心に、外部講師の経験談や思いを聞き、がんに対しての興味・関心を高めたり、前向きな捉え、家族や身近な人の大切さや役割について考えさせたりする機会とした。
豊田市立梅坪台中学校 1月13日 【医療従事者】	3年保健講座「がんについて知り、自分にできることを考えよう」 緩和ケアに携わられている講師から、がんについての正しい知識と「がんや病気に関わらず、困っている人がいたらアドバイスよりも聞くことを大切にしてほしい。」というメッセージを聞き、がんに向き合う人に対する共感的な理解と、生きることや命の大切さについて考えさせた。
愛知県立瀬戸高等学校 1月19日 【医療従事者】	1年総合的な探究の学習　いのちの教育 授業だけではできない、がんについての専門的な知識や実情を専門家から学び、大人になってからでなく、高校生のうちから意識して、がん予防に取り組む姿勢や生活習慣の大切さを知らせた。
一宮市立大志小学校 1月31日 【医療従事者】	５・６年総合的な学習の時間「がんについて考えよう」 外部講師と養護教諭のTTで指導を行った。映像資料の活用によりがんについての正しい知識を学び、外部講師が関わったがん患者さんの話から、健康と命の大切さに気づかせるとともに、自己の生き方を考える機会とした。

（３）その他

外部講師を派遣した地区の教職員研修

実施日 【外部講師】	実　施　事　項
県立学校等保健主事研修会 7月13日 【医療従事者】	保健主事が学校保健の推進者として、がん教育の目的や意義を理解し、がんについての正しい知識やがん検診・がん予防の必要性を学んだ。また、外部講師の活用の有効性を認識し、自校でのがん教育の方向性や方法等をイメージしやすくし、前向きにがん教育を推進できるようにした。【参加人数：県立学校等保健主事213人】
豊田市養護教諭研修会 10月26日 【医療従事者及びがん経験者】	「学校で伝える私のがんの話と届いた感想」 「がん教育を通して考えたいこととがん教育上の配慮について」 医療従事者とがん経験者というそれぞれの外部講師の立場から、実際に学校での指導の経験を踏まえながら、がん教育の目的や大事にしていること、子どもたちに伝えたい思い、指導にあたって配慮すべきことなどを聞き、自校で行うがん教育の具体的なイメージをもたせた。【参加人数：市内養護教諭104人】
愛知県立足助高等学校 12月27日 【医療従事者】	教員研修「がん検診の啓発について」 がん検診の普及・啓発をねらいとして、外部講師よりがんについての知識、地域医療の実態の話を聞き、実施に検査の現場や施設を巡った。今後の病院と連携したがん教育の実施や地域のネットワークの構築につなげた。【参加人数：教職員18人】

２．事業の達成度について

（１）がん教育研修会

《成　　果》

・県立学校の保健体育科の教諭を対象に、がん教育について学ぶ機会とした。講師の調査官からは、国の動向や、学習指導要領に示されているがん教育に関する目標や内容、教材の紹介や具体的活用法、そして効果的な指導にするための外部講師との連携やカリキュラム・マネジメント、そして指導上の配慮事項など、がん教育に取り組むにあたって必要な内容を網羅する形で、ポイントをしぼってお話しいただいた。実際にがんを取り扱う授業を担当される先生方に、がん教育について理解を深め、自校での授業のイメージを膨らませ、やってみようと意欲をもたせる機会となった。

・保健医療局の協力を得て、医療機関やがん患者団体へ研修の周知を依頼し、外部講師によるがん教育に関心のある方々、がん教育総合支援事業の委員にも参加していただくことができた。参加された方々からは学校教育の中のがん教育への理解や「教育現場としっかり意思疎通を行い自分の経験や素直な気持ちを伝えることで、生徒たちの学びや何かを感じるきっかけに役立てたい」と前向きな感想をいただいた。

（２）外部講師派遣事業

《成　　果》

・派遣事業２年目ということもあり、本事業を利用した外部講師と連携したがん教育への申込は昨年度の約２倍となった。また、昨年度の反省から事業のシステムをフローチャートで示して分かりやすく示したことで、手続きの上での学校から問い合わせは減った。

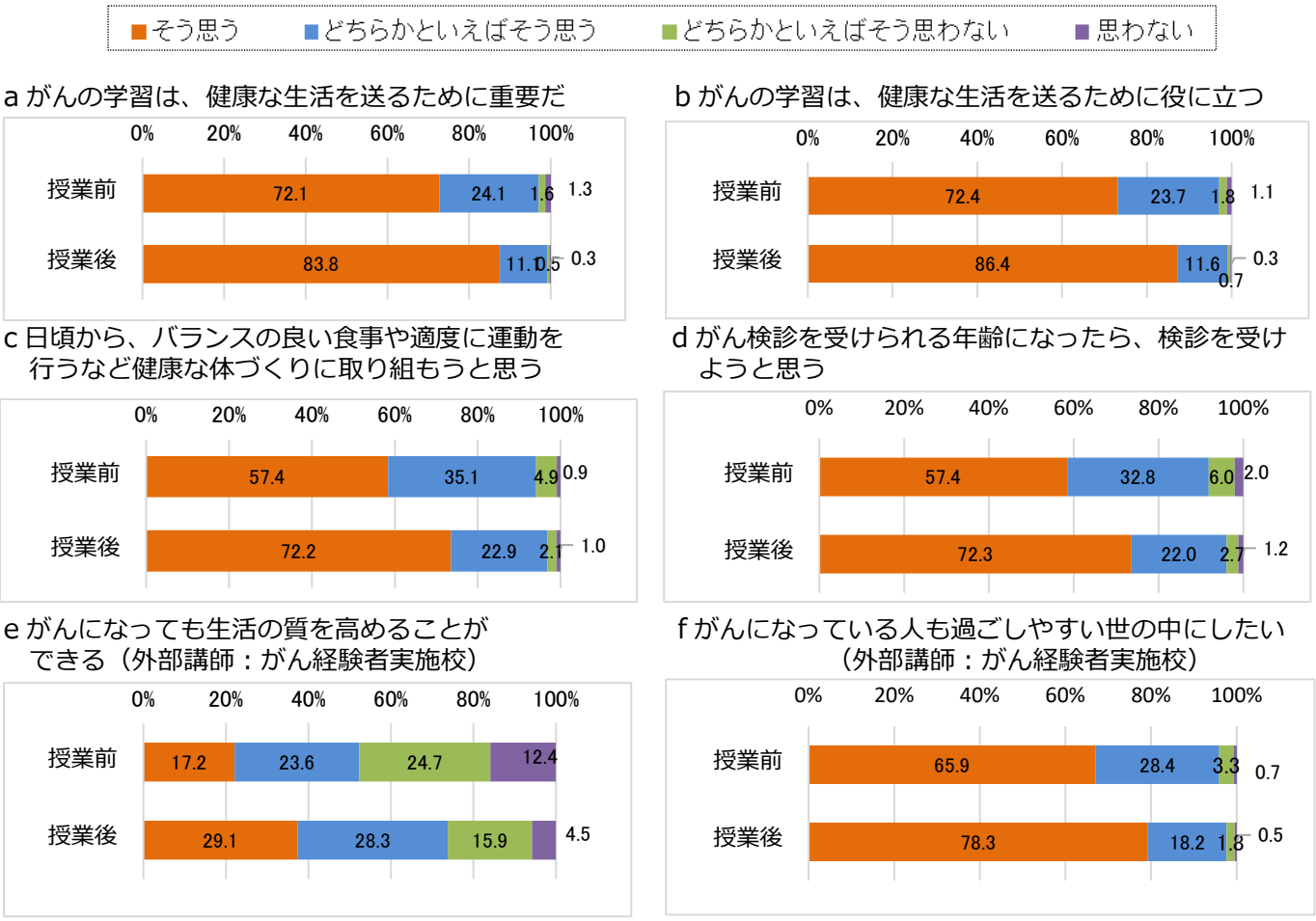
・医療関係者とがん経験者を外部講師とする「がん教育出張プログラム」を計画し、派遣事業の一部として実施したことで学校の申込数が増えた。また、がん経験者の外部講師を招聘することにもつながった。

・がん教育の前後に実施したアンケートによると、「がんについての学習は重要であり、今後の健康生活に役立つ」と回答した児童生徒が約72%から約85%に増えた。また、「がんを予防する生活習慣」「早期発見や定期検診」の意欲を高めた児童生徒も約57%から約72%に増えた。

・知識のみでなく、「限りある命を大切にしようとする気持ち」や「大切な人ががんになったら自分になにができるのか」等、がんを自分ごととして考え、生き方を見つめる機会となった。

・学校や地区の教員研修では、外部講師の講話や教員同士の協議により、学校におけるがん教育の在り方や、外部講師との協働・連携について学び、自校でのがん教育実施のイメージを膨らませることができた。

〈がん教育外部講師派遣事業　事前事後アンケート結果より〉外部講師派遣事業実施校：児童生徒 2629 人



3．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（１）がん教育研修会

・教員の働き方改革が求められる中で新たな研修を立ち上げることはなかなか難しい。また、子どもを取り巻く健康課題は山積しているため、既存の研修で毎年「がん」を取り上げることは難しく、地区毎の研修が開催できるよう働きかけをする必要がある。

・がん教育に関する通知や外部講師リストなどが、保健体育教科担当教諭等に周知されていない課題が明らかになったことから、学校教育全体でがん教育を推進するためにも周知の方法を工夫したり、学校保健関係者以外もがん教育を学んだりする機会が必要である。

・外部講師の質の向上につながる研修を企画し行っていく必要がある。

（２）外部講師派遣事業

・外部講師と連携したがん教育を実施するにあたり、効果的な指導には事前の打ち合わせが欠かせないため、学校が主体となった打ち合わせがスムーズに行える仕組みづくりが必要であること。

・事業を利用した学校からは「行ってよかった」という報告があるが、県全体としては外部講師を活用してのがん教育に取り組めている学校はまだ少ない。今後も研修等様々な機会を通して、実施校の成果を周知し、外部講師を活用したがん教育の推進が浸透していくよう図っていく必要がある。

4．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・保健医療局の協力により、医療関係者の外部講師リストが整備されているが、学校からは「どのような話をしてもらえるかわからない」という声があり、不安で積極的な利用につながっていない現状がある。

・「がん教育に取り組む時間の確保」に課題を感じる学校が多いことから、先進校の取組例などを周知し、がん教育を無理なく、どの学校でもあたりまえに行えるよう目指していく必要がある。

・外部講師の育成に関する取組を県教育委員会主体で行うことに困難を感じている。県保健医療局やがん患者団体等との連携をさらに図っていく必要がある。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	三重県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全員で 12 人

（内訳：学校医代表（小児科）１人、大学病院医師（がん専門医）１人、大学病院臨床心理士１人がん経験者１人、校長１人、教職員１人、市町教育委員会１人、県医療保健部１人、県教育委員会事務局４人）

・他の組織との連携：県医療保健部、三重大学医学部附属病院の専門医及び同医学部教授等、がん患者支援団体

２．開催時期、検討内容

６月　第１回協議会…がん教育の推進に向けた事業の検討

１月　第２回協議会…がん教育に関する事業の検証と学校におけるがん教育の進め方について検討

②　教育委員会としての取組

・県教育委員会が作成したがん教育指導教材のポイントや改訂した箇所について、解説を行うとともに、がん罹患者が家族にいる場合の子どもの心理面等に関すること、がんの経験を通して、命の大切さや周りにいる人ができること等、教職員や市町教育委員会担当者を対象に講習会を行った。

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・県医療保健部において、本県のがん診療連携拠点病院である、三重大学医学部附属病院の専門医及び同医学部教授、がん患者支援団体等の関係者と連携を図り、外部講師の派遣、がんに関する教育協議会、がん教育に関する講習会を開催する等、取組をすすめた。

・がん教育外部講師依頼先リストを活用して、外部講師と取り組むがん教育授業を、県内の小・中・高・特別支援学校に募集し、取りまとめを行った。がん教育授業の事前打ち合わせは、申込のあった学校、所管する教育委員会とで行い、授業のねらいや配慮すること等を確認した。確認した内容等について、県医療保健部の協力を得ながら、県教育委員会が外部講師との窓口となり、連絡して取り組んだ。

（２）モデル校における取組

市町及び県立高等学校で応募のあった学校において、児童生徒を対象としたがん教育授業を実施した。

・桑名市立多度東小学校・桑名市立精義小学校

・津市立西郊中学校・津市立南が丘中学校・津市立芸濃中学校

・津市立久居中学校・津市立美杉中学校

２．事業の達成度について

・外部講師を活用した授業前後に児童生徒に「がんの学習アンケート」を行い、集計・グラフ化したもの及び児童生徒の感想を、がん教育に関する協議会においての資料とし、令和５年度のがん教育の方向性を話し合うことができた。がん教育講習会について、昨年度は新型コロナウイルス感染症に影響され、Ｗｅｂ会議での実施を余儀なくされたが、今年度は、対面式で開催でき、教職員等からの質問に講師が答える等、充実した講習会になった。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

1　教職員へのがん教育の必要性の意識啓発

これまで、がん教育研修会（医療従事者・がん経験者による講義）は対面での開催を行ってきたが、出席人数の実情等ふまえ、対面と web を兼ねるハイブリッドでの開催を検討している。

2　本人を含め、身近にがん患者がいる、またはがん等で亡くなった家族等がいる児童生徒への配慮の在り方と具体的な手だて等を考える。

3　県教育委員会ホームページに掲載している指導用教材や手引きの改訂と更新

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・「がん教育」学校用教材の周知や普及に向けた取組

・高等学校における外部人材を活用したがん教育の取組

・各市町によるがん教育の取組の拡大

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	兵庫県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員（15 名：医師１名、大学教授１名、県保健医療部１名、県教委３名、校長４名、養護教諭４名、教職員１名）

構成員氏名	所属及び役職
中川　　勝	県医師会　理事
杉崎　弘周	新潟医療福祉大学健康スポーツ学科　教授
石井奈穂子	県立西神戸高等特別支援学校　（モデル校）　校長
山根　　尚	県立長田高等学校　（モデル校）　校長
世良　繁信	宍粟市立千種中学校　（モデル校）　校長
立田　仁美	洲本市立加茂小学校　（モデル校）　校長
中島　理恵	県養護教諭研究会連盟　会長
大西　利恵	県立西神戸高等特別支援学校　（モデル校）　授業担当教員
藤原　　淳	県立長田高等学校　（モデル校）　授業担当教員
山本　美紀	宍粟市立千種中学校　（モデル校）　授業担当教員
奥井　美穂	洲本市立加茂小学校　（モデル校）　授業担当教員
植田　勝明	県保健医療部感染症等対策室疾病対策課長
北中　睦雄	県教育委員会事務局体育保健課長
髙尾　賢司	県教育委員会事務局体育保健課主任指導主事兼主幹
西本　高丈	県教育委員会事務局体育保健課指導主事

２．開催時期、検討内容

○第１回協議会（令和４年８月 26 日　神戸市教育会館）

議事（１）がん教育に関する計画（案）について

（２）がんに関する事業内容について

ア　がん教育に関する授業の実施について

イ　講演会について

ウ　研修会について

エ　アンケートについて

オ　今後の取り組みについて

○第２回協議会（令和５年１月 26 日　県民会館）

議事（１）令和４年度成果と課題について

（２）外部講師窓口リスト時点修正について

（３）令和５年度がん教育総合支援事業について

①　教育委員会としての取組

○モデル校４校（高等学校１、中学校１、小学校１、特別支援学校１）に講師を派遣し、講演会を開催した。

※詳細は、（２）モデル校における取組に記載のため省略

○がん教育に関する教職員及び外部講師対象の研修会の開催（令和４年 12 月８日（木））

学校におけるがん教育において、外部講師の関わり方を充実させることにより、より効果的ながん教育の実施を図ることができるように、外部講師及び教職員、市町組合教育委員会担当者等対象に開催した。

本研修会では、三木市立三木東中学校主幹教諭であり、がんサバイバーの渋谷優美氏より、「がんを克服してみえたもの～復帰詐欺～」というテーマで、新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授の杉崎弘周氏より「がん教育の授業実践について」というテーマで講演頂いた。

また、モデル校担当者による各校の実践事例発表を実施したのちに、グループ協議を行い、各立場から意見交換を積極的に行う様子が見られた。

【参加人数：外部講師７名、教育事務所３名、教育委員会８名、教職員 53 名、計 71 名】

○がん教育に関する実践研究発表会の開催（令和５年２月３日（金））

本発表会では、日本女子体育大学健康スポーツ学科教授の助友裕子氏より、「学校におけるがん教育の実際～カリキュラム・マネジメントを踏まえた指導の在り方を中心に～」というテーマで講演頂いた。

その後、モデル校である県立長田高等学校生５名が実施した「探究の時間」の成果をパネルディスカッション形式で発表して頂いた。コーディネーターは、新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授の杉崎弘周氏と講演頂いた助友先生に務めて頂いた。テーマは「がん教育のためのがん教育」として、がん教育を受講した経験を踏まえて、より高校生に向けたがん教育の在り方を検証し、参加された方々からも積極的に意見交換をすることができた。

【参加人数：外部講師６名、教育事務所３名、教育委員会７名、教職員 30 名、計 46 名】

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

○県保健医療部と連携し、がん診療連携拠点病院や県医師会の協力を得て、外部講師となりえる医療関係者等に対して、研修会を実施した。内容としては、新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教授の杉崎弘周氏より新潟県におけるがん教育の実践についてご講義いただいた。

○外部講師の連絡体制が取りやすくなるよう、県医療福祉部と連携し、がん診療連携拠点病院における外部講師の窓口担当者リストの時点修正を行った。

（２）モデル校における取組

○令和４年７月８日　洲本市立加茂小学校

講演内容は、がんの由来にはじまり、がんとはどういう病気なのか、患者はどのぐらいいるのかなどを、わかりやすく説明頂いた。

【講師】洲本伊月病院　副院長　橋本　芳正　氏
「がんを知ろう」

【参加人数】６年生及び教職員　31 名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間１時間

○令和４年 12 月 19 日　県立長田高等学校

講演内容は、本協議会で作成した高校生用の PPT を活用し、がんの基礎知識を教示頂いた。また、講師の専門分野である「データサイエンス」を解説頂き、データでがんの治療法等を決定するなど紹介された。

【講師】大阪医科薬科大学医学研究支援センター
医療統計室　室長・准教授　伊藤　ゆり　氏
「データサイエンスの視点でみるがん」

【参加人数】１年生及び教職員　320 名

【実施科目・授業時数】総合的な探求の時間１時間

○令和５年１月 10 日　県立西神戸高等特別支援学校

講演内容は、がんに関する基礎知識を中心にご教示頂いた。がんは身近な病気であることに始まり、メカニズム（細胞変異）や治療方法、緩和ケアに至るまで、詳細にわかりやすく講演された。

その後、各教室にもどり、担任が中心となって振り返りを行った。振り返りながら、各生徒の感想や意見交換を行っていた。この際、各教室のフロアに、講演頂いた横山先生をはじめ、神戸薬科大学総合教育研究センターの学生に待機して頂き、各教室で出た質問事項や、担任の先生が答えづらい内容が出た場合に、代わりに答えて頂いた。

講演から振り返りまで、学校全体が一丸となり取り組んだ内容であり、大変組織的ながん教育となった。

【講師】神戸薬科大学総合教育研究センター
助手　横山　郁子　氏
「がんを学ぼう！」

【参加人数】全学年及び教職員　130 名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間１時間

○令和５年２月 16 日　宍粟市立千種中学校

講演内容は、講師ご自身が小児がんによりご子息を亡くされた話から、がんの基礎知識や、命の大切さなど、がんを身近に感じることの重要性をご教示頂いた。

【講師】公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金
事業局長　田村　亜紀子　氏
「がんについて考えよう」

【参加人数】３年生及び教職員等　17 名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間１時間

２．事業の達成度について

○アンケート結果より、上記１３項目中１３項目が実施後、増加した。

○昨年度結果と比較すると、上記１３項目中９項目（太字数値）において増加率が昨年度を上回った。これは、今年モデル校としてスタートした西神戸高等特別支援学校の増加率と比例していると考えられる。初年度の取組として、「がんを知る」という観点から実施されたので、がんに関する基本的な知識の習得につながった結果といえる。

○教職員・外部講師を対象としたアンケート結果より、概ね良かったという意見が多かった。

○一番好評であったのが、高校生によるパネルディスカッションであり、授業を受ける生徒の意見を聞くことができたのがよかったという意見が多かった。

○がんを罹患して現在復帰している教諭が、校内のがん教育を実施しているという内容の講演が好評であった。また、新潟県の授業実践も同様に好評であった。

	がんの学習について	実施前	実施後	増減
(1)	1）a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	80.0% (82.0)	88.1% (89.9)	**+8.1** (+7.9)
	1）b がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	74.4% (82.2)	85.5% (88.8)	**+11.1** (+6.6)
(2)	がんやがん患者に対する正しい理解と認識を学ぶことができた。	実施前	実施後	増減
	2）c がんは日本人の死因の第２位である。 「誤り」と答えた児童生徒の割合	61.9% (61.5)	76.7% (74.9)	**+14.8** (+13.4)
	2）e 早期発見すれば、がんは治りやすい。 「正しい」と答えた児童生徒の割合	93.4% (95.7)	99.6% (97.1)	**+6.2** (+1.4)
	3）e がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。 「そう思わない」と答えた児童生徒の割合	31.9% (39.2)	44.0% (56.9)	+12.1 (+17.7)
	3）f がんになっても生活の質を高めることができる。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	27.1% (32.0)	38.0% (62.1)	+10.9 (+30.1)
	3）g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	73.1% (80.5)	80.9% (85.1)	**+7.8** (+4.6)
(3)	健康の大切さについて主体的に考えるようになった。	実施前	実施後	増減
	3）a 自分はがんにならないと思う。 「そう思わない」と答えた児童生徒の割合	34.8% (46.7)	42.6% (55.7)	+7.8 (+9.0)
	3）c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	61.5% (62.0)	77.4% (74.2)	**+15.9** (+12.2)
	3）d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	54.4% (62.5)	71.4% (78.3)	**+17.0** (+15.8)
	3）h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	45.2% (47.4)	56.3% (60.8)	+11.1 (+13.4)
	3）i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	93.8% (95.7)	95.2% (95.2)	**+1.4** (-0.5)
	3）j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	77.8% (80.4)	84.2% (82.4)	**+6.4** (+2.0)

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○アンケート結果や協議会での意見を踏まえて、以下の課題に取り組んでいく。

(1)がんと共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成についてモデル校単位で検討し、効果的な外部講師の活用や、講演内容の精選を行う。

(2)がん教育の県内への普及・啓発と運営方法の周知（講師選定、教育課程での位置づけ等）

○モデル校の好事例について、ホームページ等を活用して公開していくことに取り組む。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○昨年も実施しているが、「がん教育実施状況調査」より、外部講師を活用してがん教育を実施したモデル校以外の校数と、県下各校に集計結果報告をするとともに、外部講師窓口リストを添付して発送する予定。

○来年度のモデル校から、特に下記についての方法論などを中心に、研修会において報告して頂く。

・配慮を要する児童生徒への具体的な対応内容

・年間計画や教育課程上における位置づけ、及びがん教育実施時間の確保

・外部講師の選定と謝金等の経費確保

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	奈良県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全員で１１人

（内訳：学校保健技師・がん専門医・県医師会理事・小中高校長５名・県福祉医療政策部疾病対策課長・県教育委員会事務局学ぶ力はぐくみ課長・県教育委員会事務局健康・安全教育課長）

２．開催時期、検討内容

・第１回推進会議（８月）：事業の推進に向けた計画の検討

・第２回推進会議（１２月）：事業の中間報告と計画の確認

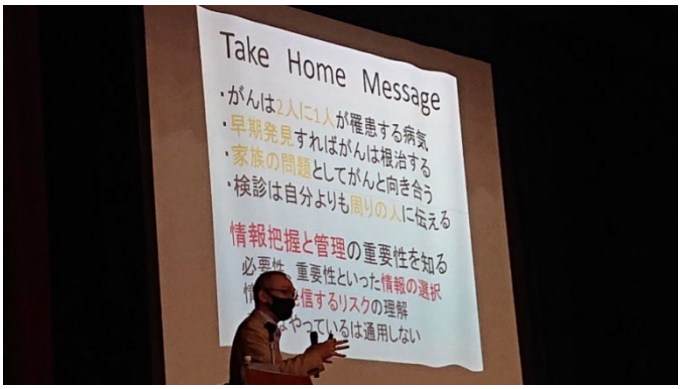
・第３回推進会議（２月）：事業成果の報告と検証・課題の検討

②　教育委員会としての取組（モデル校における取組は実施せず）

●高等学校における「外部講師を活用したがん教育」

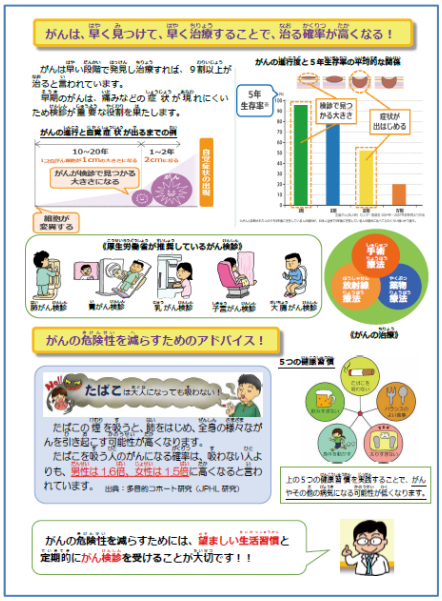
外部講師を活用したがん教育の普及啓発のため、令和３年度～５年度の間に県内の全公立高等学校でがん教育講演会の実施を計画し、令和４年度は高等学校１２校で「がん教育講演会」を実施した。

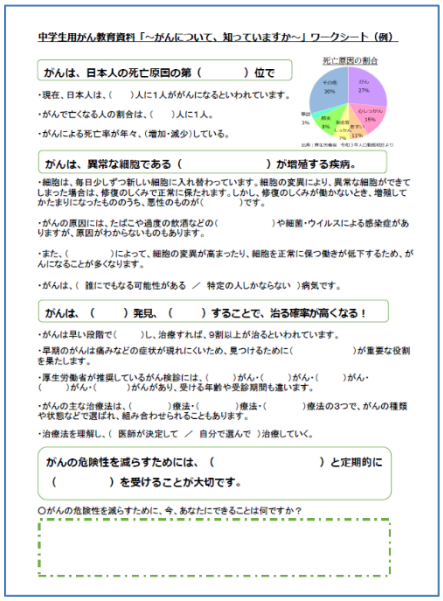
講師派遣にあたっては、事前打合せシートを活用することで必要な情報が共有できるように工夫したため、学校からの要望や講演会のめあて、事前事後指導の内容などをお互いに確認しながら打合せを進めることができた。



●中学校におけるがん教育

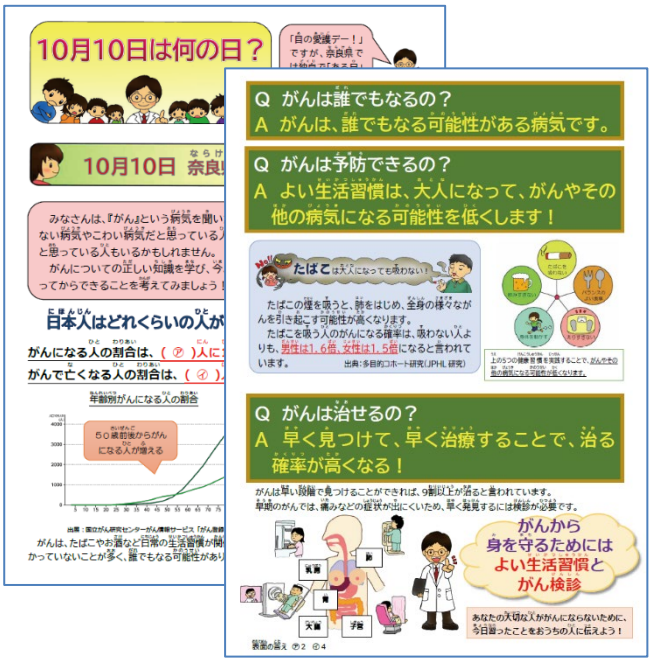
中学生向けのがん教育リーフレットや補助教材（ワークシート）を作成・配布し、保健体育の教科書の補助教材としての活用を啓発した。

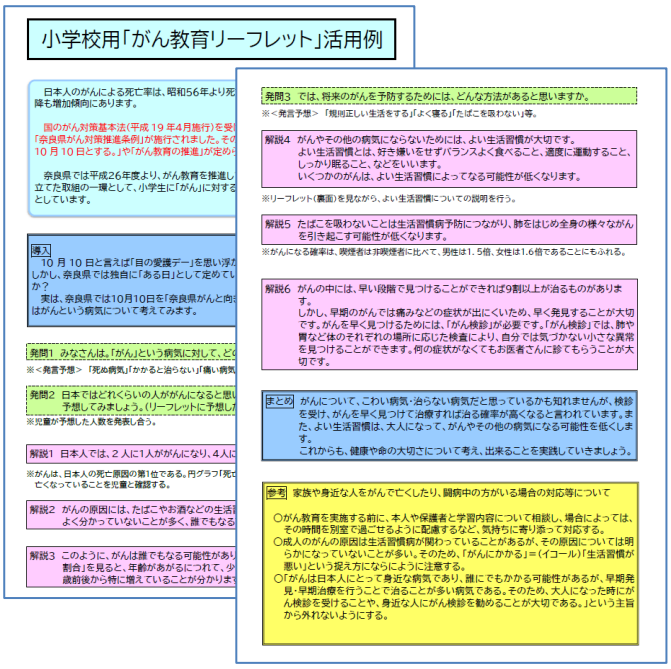




●小学校におけるがん教育

小学生用リーフレットを見直し、短時間（１５分程度）で展開できる活用例と共に「１０月１０日奈良県がんと向き合う日」に合わせて配布した。活用例の中では、指導者の不安を解消できるよう、学校で配慮すべき事項などを加え、具体的な取組方法を提示した。





●がん教育研修会（教職員・外部講師対象）

今年度は、講師にがん教育外部講師とがん看護専門看護師を招聘し、高等学校におけるがん教育の実際や、がん患者に対する配慮事項等について講演していただいた。研修会前に、講師に対する質問事項を募集し、それらに回答する形で講演や質疑応答（座談会形式）を行ったため、参加者からは「ずっと疑問に感じていたことが解消された。」「がんに限らず、闘病している全ての人にとって大切な事業であると感じた。」などの感想が得られた。

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

がん教育を進めるにあたり、外部講師から「子宮頸がんワクチンの取扱い」について相談を受けたが、県福祉医療政策部疾病対策課との連携により解決することができた。

また、研修会にがん看護専門看護師を招き、色々な情報交換をする中で、がん教育に積極的に関わりたいとの思いを知ることができ、今後は医療側と教育側が連携した取組が広がると期待している。

２．事業の達成度について

令和４年度がん教育の取組状況調査（県独自調査、令和４年１２月実施）において、がん教育の実施率が高等学校では７４．５%から９１．２%へ、中学校では８１．２%から８６．５%へ、小学校では、７２．５%から７５．７%へとそれぞれ増加した。いずれの校種においても、がん教育が実施できなかった理由として「学習時間の確保が困難である。」と回答していた。

３ヵ年の計画で全公立高等学校へ外部講師派遣を行っているが、担当教員からは、「教科書では分からないことが知ることができ、教職員にとっても良い講演会であった。」「次年度以降も派遣して欲しい。」との声をいただき、外部講師派遣の要望が高まっているほか、外部講師が作成したがん教育動画を配布した学校では、「保健（がん単元）」の授業において活用した結果、生徒がそれぞれの端末で視聴できるためグラフ等が見やすく、事後指導においても動画を活用して振り返りができるなど、高評価をいただいた。

また、学習指導要領の改訂を受け、令和４年度から全ての中学校・高等学校においてがん教育を実施することになり、モデル校としての取組ではなく、各学校からの依頼を受け外部講師を派遣する形としたが、学校・外部講師・教育委員会の連携が難しくなることを考慮し、外部講師派遣スケジュールや外部講師派遣様式（打合せシート含む）を作成した。

これらの活用により、がん教育を円滑に実施することができたが、幾つかの学校においては「事前・事後アンケートの失念」「報告書漏れ」などが散見されたため、これらの解決のため、学校・外部講師・教育委員会がすべき内容を盛り込んだチェックシートを作成し、次年度から試行していく予定である。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

次年度は、未派遣である公立高等学校 14 校に対して、外部講師を活用したがん教育を進める予定であるが、学校からの要望を受け、令和６年度以降は外部講師派遣を中学校・高等学校へ拡大し、より多くの学校へ派遣したいと考えている。そのためには、より多くの外部講師の確保が必須となるため、次年度はがん看護専門看護師やがん患者会と連携し、外部講師の確保と外部講師向け研修会の開催を計画している。

また、外部講師派遣ができない場合にもがん教育が実施できるように、各学校で活用できる教材（講演会動画や解説付きスライド）を作成する予定である。

さらに、身近にがん患者がいる場合などで、がん教育に対して不安を感じていたり、児童生徒からの質問が専門的で回答に困る場合などに、がん専門医に相談することができる仕組み（プラットフォーム）を構築し、がん教育後のフォローができる体制を整え、安心してがん教育に取り組むことができるようにしたい。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

本県では、学校主体でのがん教育を目指しているため、モデル校における取組をしていない。そのため、学校では、体育・保健体育の授業でがん教育を実施することが多いが、時間割編成などが学校の負担になっていることがある。がん教育講演会を受けて、命の大切さや病気をかかえる人への共感などを知り、「学校行事として開催し、全生徒で受講したい。」との感想もあり、今後は特別活動や道徳としての取扱いなど、カリキュラム・マネジメントについても検討し、学校へ周知する必要があると考える。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	和歌山県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全員で１５人

内訳：がん専門医（呼吸器内科・腫瘍内科）１人、県学校医会（小児科）１人、がん患者連絡協議会１人、県連合小学校長会１人、県中学校長会１人、県立学校長会１人、県学校保健主事研究会１人、県養護教諭研究会１人、モデル校担当教員３人、健康局健康推進課１人、学校教育局教育支援課４人（事務局２人を含む）

２．開催時期、検討内容

【第１回協議会】

・日　程：令和４年７月２２日

・内　容：がん教育実施状況調査の結果から課題等を見出し、がん専門医、学校医、県福祉保健部健康推進課、学校関係者等で外部講師を活用したがん教育推進のための事業計画について協議した。

【第２回協議会（Ｗｅｂ会議）】

・日　程：令和５年２月８日

・内　容：令和４年度の事業内容について報告するとともに、事業内容等に関する評価を行った。各委員からは、それぞれの立場による意見をいただくとともに、本事業の充実を図るため、次年度の計画（案）についても協議した。

②　教育委員会としての取組

○普及・啓発

教職員及び医療・保健関係者を対象に、本県におけるがんの状況及びがん教育の実施状況、がん教育推進に係る法的根拠、学習指導要領の趣旨、外部講師依頼時の要点、各発達の段階における取扱等について説明を行うとともに、がん専門医による講演で文部科学省の教材を活用した外部講師によるがん教育の推進について啓発した。

実施時期	実施内容	対象	備考
１２月２３日	がん教育研修会（講演、説明①、説明②）	教職員・外部講師	参加者１２名
１月１３日	がん教育研修会（講演、説明①、説明②）	教職員・外部講師	参加者４０名

【講　演】演題：「がんについて知っておくべきこと」

講師：公立那賀病院　臨床腫科　科長　上田　弘樹　氏

【説明①】演題：「本県のがんの状況について」

講師：和歌山県福祉保健部健康局健康推進課がん・疾病対策班　主任　則岡　麻耶子　氏

【説明②】演題：「がん教育について」

和歌山県教育庁学校教育局教育支援課健康教育・食育班　指導主事　野田　裕子

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・がん教育総合支援事業協議会に委員として出席を依頼し、本県におけるがん教育の推進について協議

・本県のがんに関する現状等について教材を作成するための検討

・外部講師を確保するため、がん診療連携拠点病院及びがん患者連絡協議会との連携

・和歌山県医師会等と連携を図り、外部講師リストの作成

・健康教育の一環として外部講師を活用したがん教育の充実を図ることをがん対策推進計画に掲載

（２）モデル校における取組

○和歌山県立那賀高等学校

テーマ：　「がんの治療　問題と支援」

日　程：　令和５年１月１９日

講　師：　公立那賀病院　臨床腫瘍科長　上田　弘樹　氏

対　象：　２年生　４０名

内　容：　生徒の理解を促すため、文部科学省作成の教材を活用した講義及びワークショップで実施した。ワークショップでは、それぞれが考えた意見からベストアンサーを決め、全員で共有した。また、高校生であることから、キャリア教育の視点も踏まえた内容とした。

○和歌山市立雑賀小学校

テーマ：　「がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために」

日　程：　令和５年１月２６日、２月２日

講　師：　学校医　津野　博　氏

対　象：　６年生　１０３名

内　容：　授業は各学級で行うとともに、児童の理解を促すため、文部科学省作成の教材を参考に、養護教諭が児童の発達の段階を踏まえて作成した教材及びワークシートを活用し、外部講師による講義を行った。

○海南市立巽中学校

テーマ：　「がんの予防」

日　程：　令和５年１月２７日

講　師：　公立那賀病院　臨床腫瘍科長　上田　弘樹　氏

対　象：　２年生５６名

内　容：　授業は各学級で行うとともに、生徒の理解を促すため、文部科学省作成の教材を活用した講義及びワークショップで実施した。ワークショップでは、それぞれが考えた意見からベストアンサーを決め、ＩＣＴを活用して全員で共有した。

○有田市立箕島中学校

テーマ：　「がん　今の状況と予防について」

日　程：　令和５年１月２７日

講　師：　公立那賀病院　臨床腫瘍科長　上田　弘樹　氏

対　象：　２年生　１００名

内　容：　生徒の理解を促すため、文部科学省作成の教材を活用し、外部講師による講義を行った。体育館での実施だったため、グループワーク等は実施できなかったが、外部講師から発言を求められた際には、それぞれの意見を発表することができていた。

２．事業の達成度について

○協議会の果たす役割についての評価

協議会においては、がん専門医や学校医、県健康推進課担当者、学校関係者を委員として、Ｗｅｂ会議システム等も活用しながら、外部講師リストの作成、学校医と教職員の連携の促進、外部講師を活用した効果的ながん教育の在り方、授業の中での教材の活用方法等を検討することができた。前年度までのがん教育実施状況の結果等を踏まえて協議を行ったことにより、児童生徒の理解を促すための効果的な指導方法として、発達の段階を踏まえる必要があること、県内のがんの状況等を指導内容とすること等の意見が得られるなど、本県における外部講師を活用した効果的ながん教育の在り方を検討することができた。

○がん教育研修会についての評価

研修会の参加者については、関係機関にも開催要項を周知したことで、学校関係者だけではなく、市町村の保健師や医療従事者、がん診療連携拠点病院の職員等職種に拡がりが見られた。一方で、研修会の参加者が少なかったため、当初の予定を変更し、説明及び講演後に研修内容を踏まえた今後のがん教育への取り組み方について協議の時間を設定したことにより、参加者からは、実践につなげるために具体的に考える機会となったとの意見が得られた。

研修会の内容については、参加者に記述式の事後アンケートを実施し、意見や感想等を集約した。

・がん専門医による講演

外部講師を活用した具体的な授業の進め方や教材の活用方法、事前打合せの必要性等について理解を深めることができた。また、がんに関する専門的な知識をわかりやすく説明していただいたため、参加者自身ががんについて正しく理解することにつながった。

・県福祉保健部局及び教育支援課による行政説明

がん対策基本法や学習指導要領等がん教育実施の根拠や外部講師を活用することによる効果、本県のがんやがん教育実施の状況等について理解を深めることができたとの意見が得られた。さらに、がんについて、児童生徒が身近に感じることができるよう、本県のがんの状況を教材として活用することは効果的であるという意見が得られた。また、県の状況から課題が明確になり、特にがん検診の受診率については児童生徒等に意義を伝えていく必要があるとの意見が得られた。

教職員以外の参加者からは、「まずは学習指導要領の内容を理解することが重要であり、教育機関と連携を図りがんについての普及・啓発活動ができるよう、協力体制を整備していきたい」との意見が得られた。

○外部講師リストに関する評価

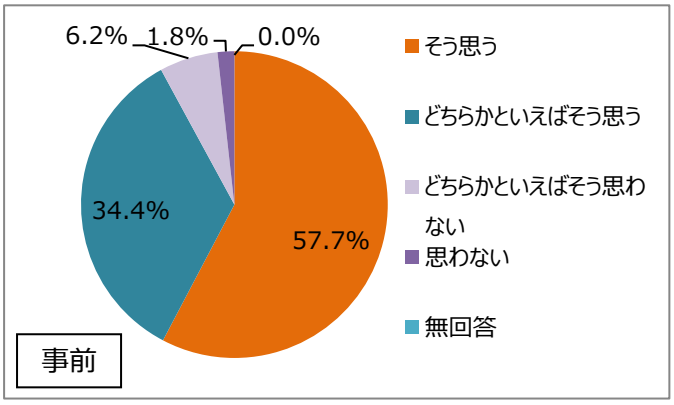
外部講師リストについては、県医師会において会員に周知をし、８８名の開業医が外部講師として登録されており、そのうち２３名は学校医として担当している学校でのみ実施する意向であった。引き続き、関係機関等と連携を図り、外部講師リストの充実及び派遣のための窓口を設定する。

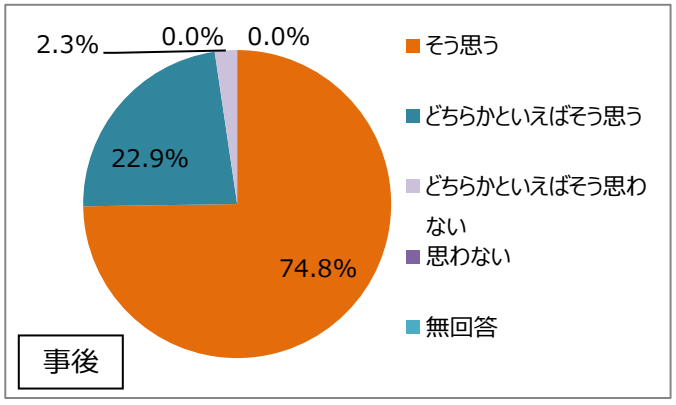
○モデル校における評価

外部講師を活用したがん教育の実施に係る事前打合せにおいては、学校が計画した「がん教育事前打合せシート」及びＷｅｂ会議システム等を活用し、効率的に打合せを行うことができた。「がん教育事前打合せシート」を活用することにより、学校が計画すべき事項を協議した上で、打合せを行うことができるため、学校主導の指導計画を立案することができた。また、生徒を対象とした事前事後アンケートの結果から、がんについて正しく理解することができ、生活習慣や検診の受診等今後の行動変容につながるような意見が得られた。

本県においてはがん検診受診率が低いことも踏まえ、事前事後アンケートの項目のうち、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」について検証したところ、受けようと思う児童生徒等の割合が大幅に増加している（図１参照）

【がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（図１）】





３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 出席者の職種には拡がりがみられるようになったが、全体の参加者数は少なかったため、県内全域でがん教育を推進する上で研修会の開催地方を検討したり、e-ラーニングを活用するなどの工夫をする必要がある。また、教職員については養護教諭の参加が多かったため、保健体育科教諭や管理職、市町村教育委員会の担当者の出席を促す必要がある。
- がん教育の充実を図るため、研修会については、外部講師及び教職員を区分して実施し、「ベーシック編」及び「アドバンス編」を設定し、実践の状況に応じて受講できるよう内容を検討する。特に外部講師リストへの登録者に学校医が多いことから、学校医研修会等において研修を行う必要がある。
- モデル校については、小学校１校、中学校２校、高等学校１校を選定し、がん専門医や学校医等を外部講師とした実践を行った。今後も、校種や外部講師の種類、取り扱う時間等により様々なモデルケースを蓄積し、外部講師を活用がん教育の在り方や協力体制の整備について検討するとともに、モデル校での実践を先進的な事例として啓発していく方法についても検討する必要があると考える。
- 文部科学省が作成した教材だけではなく、児童生徒がより身近なこととして捉えることができるよう、和歌山県のがんに関するデータを授業で活用できるような資料にしていきたい。
- 外部講師リストについて、今年度は県医師会の会員に登録をしていただいたが、今後は、がん診療連携拠点病院等の医療関係者やがん経験者等にも登録していただけるよう働きかける必要がある。また、作成した外部講師リストの運用方法を整備していく必要があると考える。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 外部講師を活用することにより、がんについて正しく理解し、自らの行動を変容させようとする意識が見られるなど指導効果が高まっていることから、外部講師を活用したがん教育の実施率や課題等を踏まえ、外部講師の活用の在り方について提示する必要がある。
- 外部講師を活用しなかった理由として、「講師リスト等がなく、講師を探すのが難しい。」が多いことから、関係機関等と連携を図りながら外部講師リストを充実させるとともに、外部講師活用のためのガイドラインの内容について具体例を示しながら研修会等で周知する必要がある。
- 外部講師を活用した授業を実施する際、特定の学級のみで授業を実施したり、講義形式の一斉指導をしたりするのではなく、複数の学級で効果的に展開する方法を検討する必要がある。
- がん教育の実施について、市町村教育委員会及び県立学校に対し、さらに周知を徹底していくとともに、外部講師を活用したがん教育の実践を行い、内容の充実を図っていく。
- 事業全体を通して、関係機関等と連携を図りながら、本県における外部講師を活用したがん教育も少しずつ軌道にのり始めていることから、今後も継続して事業を推進していきたいと考える。